

クロス集計

縦軸（行）と横軸（列）で集計する

◇機能

《クロス集計》は、縦軸と横軸からなる表（テーブル）を作成する機能です。各軸に指定したフィールドの値を元にデータをグループ化し、グループごとに、指定した数値フィールドの値を合計します。

（例）取引日別・営業担当者別の金額合計を確認したい。

取引日	営業担当者	種別	金額
2023/01/20	101	A	400
2023/01/20	102	A	600
2023/01/20	102	B	700
2023/01/21	101	A	500
2023/01/21	103	A	900
2023/01/21	102	A	800
2023/01/21	101	B	100

取引日	101	102	103
2023/01/20	400	1300	0
2023/01/21	600	800	900

取引日2023/01/21の
営業担当者101の金額合計が確認できる

《クロス集計》の縦軸と横軸

縦軸：「取引日」フィールド

取引日	101	102	103
2023/01/20	400	1300	0
2023/01/21	600	800	900

横軸：「営業担当者」フィールド

小計：「金額」フィールド

◇メニュー

《分析》-《クロス集計》

◇設定内容

クロス集計

テーブル名 : 取引データ

縦軸フィールド

フィールド名	データ型
取引日	D
営業担当者	C
種別	C
数量	INT
金額	INT

横軸フィールド

取引日 : D

小計フィールド

フィールド名	データ型
数量	INT
金額	INT

出力先

画面

テーブル

カウントを含める

IF条件

保存先

キャンセル

実行

1. テーブル名 : 操作の対象となっているテーブルが表示されます。
2. 縦軸フィールド (必須)
 - : フィールドの一覧で、縦軸とするフィールドをクリックして選択します。
 - すべてのデータ型のフィールドおよび追加フィールドが選択できます。
 - フィールドは、複数選択できます。選択した順に番号が表示され、番号順にグループ化の優先度が決まります (1が優先度高)。
3. フィールドの全選択/全解除
 - : チェックボックスのオン/オフで、すべてのフィールドの選択/解除が行えます。
4. 《フィールド選択》ボタン
 - : 「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。
5. 横軸フィールド (必須)
 - : フィールドのリストを展開し、横軸とするフィールドをクリックして選択します。
 - すべてのデータ型のフィールドおよび追加フィールドが選択できます。
 - 選択できるフィールドは、1つのみです。
 - 横軸フィールドの値は、実行結果の表 (テーブル) の列見出し (フィールド名) に使用されます。フィールド名は、「小計フィールド名_横軸フィールドの値」となります。
 - ・ 横軸フィールドがテキスト型で、値が空白のレコードが存在する場合は、空白のレコード同士を集計します。列見出し (フィールド名) は「小計フィールド名_blank」となります。
 - ・ 横軸フィールドが数値型で、小数点やマイナスの値がある場合は、列見出し (フィールド名) では小数点およびマイナスは半角のアンダースコア「_」に変換されます。

6. 小計フィールド（任意）

：フィールドの一覧で、集計する数値フィールドをクリックして選択します。

- 小計フィールドには、数値型のフィールドのみが表示されます。
- フィールドは、複数選択できます。選択した順に番号が表示され、集計結果として表示する列の順番が決まります。
- 小計フィールド名は、実行結果の表（テーブル）の列見出し（フィールド名）に使用されます。フィールド名は、「小計フィールド名_横軸フィールドの値」となります。
- 小計フィールドを選択しない場合、実行結果の表（テーブル）には、集計されたレコードの件数が表示されます。フィールド名は、「横軸フィールド名_横軸フィールドの値」となります。

7. IF条件（任意）：抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。

8. 《式ビルダー》アイコン：「IF条件」の条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。

9. 出力先（必須）：実行結果の出力先を選択します。デフォルトは、「画面」が選択されています。

- 画面：実行結果を画面に表示します。
- テーブル：実行結果を新規テーブルに出力します。

10. 「カウントを含める」（任意）

：集計されたレコード件数を表示したい場合は、チェックを付けます。

- 「カウントを含める」を選択すると、実行結果の表（テーブル）にカウントの列（フィールド）が作成されます。フィールド名は、「count_小計フィールド名_横軸フィールドの値」となります。

11. 保存先（出力先が「テーブル」の場合は必須）

：実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。

- テーブル名の長さは、64文字までです。
- 「出力先」で「画面」を選択した場合は、入力できません。
- ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダです。
- 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。

12. 《実行》ボタン：実行します。

13. 《キャンセル》ボタン：実行せず画面を閉じます。

◇ 実行結果の表示

● 画面出力の場合

日時	2023/02/22 13:42:38
テーブル	取引データ
コマンド	CROSTAB ON [取引日] COLUMNS [営業担当者] SUBTOTAL [金額] TO SCREEN OPEN
出力件数	2件

	取引日	金額_101	金額_102	金額_103
1	2023/01/20	400	1,300	0
2	2023/01/21	600	800	900
合計		1,000	2,100	900

<「カウントを含める」を選択した場合の表>

	取引日	金額_営業担当者_101	count_金額_101	金額_営業担当者_102	count_金額_102	金額_営業担当者_103	count_金額_103
1	2023/01/20	400	1	1,300	2	0	0
2	2023/01/21	600	2	800	1	900	1
合計		1,000	3	2,100	3	900	1

↑
カウムの列 (レコード件数)

● テーブル出力の場合

縦軸フィールド

取引日	金額_101	金額_102	金額_103	
1	2023/01/20	400	1,300	0
2	2023/01/21	600	800	900

「小計フィールド名_横軸フィールドの値」がフィールド名となります。

テーブル出力では、横軸フィールドの値ごとの合計の行は生成されません。

<「カウントを含める」を選択した場合のテーブル>

	取引日	金額_営業担当者_101	count_金額_101	金額_営業担当者_102	count_金額_102	金額_営業担当者_103	count_金額_103
1	2023/01/20	400	1	1,300	2	0	0
2	2023/01/21	600	2	800	1	900	1

◇操作ログ

CROSSTAB ON [縦軸フィールド1] [縦軸フィールド2] …または**ALLFIELDS COLUMNS** [横軸フィールド]
SUBTOTAL [小計フィールド1] [小計フィールド2] …または**ALLFIELDS IF 条件式 TO 出力先 COUNT OPEN**

※「IF条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。

※出力先は、「出力先」の選択により、記述が変わります。

出力先	ログ
「画面」を選択した場合	SCREEN
「テーブル」を選択した場合	"サブフォルダ名¥新規テーブル名"

※「カウントを含める」を選択した場合は、COUNTが記述されます。